

## ぼくのねこポー

## たいせつなあいてのきもちをだいに

1年 Y・Sさん

「ぼくのねこポー」をよんで、はじめにかんじたのは、谷山くんはともせつないだろうということです。ポーは谷山くんがひろってあげたねこなのに、ポーはほんとうは森くんのトムというなまえのねこでした。森くんのだいいねこかわかって谷山くんがポーをかえたところはわたしまでせつなくなしかしいきもちになりました。

つぎにかんじたのは、ともだちにかくしごとをするのは、ころろがはれつしそうなくらいくるしいということです。谷山くんは「トムがはやくみつかるといいね」といえなかったり、放課後クラブでどぶつのをかくことになったときに森くんにいじわるをいってしまったりしました。ポーをひろったことをかくすために、森くんにつめたくしてしまうじぶんがいやになって、谷山くんはともくるしそうでした。わたしもほいくえんにかよっていたころにともだちのをまちがえてやぶいてしまって、しばらくのあいだそのことをかくしているのがともくるしかったです。じぶんがわるいひとになってしまったようなきがしました。

いちばんいんしょうにのこったばめんは、谷山くんがポーを森くんにかえしてあげられたところです。谷山くんにとっただいじなかぞくになっていたポーを森くんにかえすのはとてもつらいことはすです。それなのに谷山くんが森くんのところへかえりたいというポーのきもちをかんがえてあげられたのは、みじかいじかんだったけれどほんとうにポーがかぞくになっていたからだともいえました。

わたしも、じぶんのしたいことと、じぶんのたいせつなひとやどぶつものしたいことがうとき、たいせつなあいてのきもちをだいにしていこうとしたいとおもいました。